

実践ライブラリー：高等部職業科「高齢者施設へサービスお届け～オンラインを使って」

1人では恥ずかしいけれど、グループやオンラインなら交流できそう。レクリエーションを通して、お役に立ちたい。

自己満足だけに終わらず、お客様(利用者さん)の視点に立って企画を考えることができるようになってほしい。

①施設・利用者さんを知る

年度初めに、施設長さんよりオンラインで、「グループホームでの生活」「利用者さんとの接し方」についての講義を受けた。

講義の後に、利用者さん像をつかむため、自己紹介をしあった。高齢者に対する言葉遣いや、高齢者は通常より3倍早口に聞こえていることを教えていただき、話すスピードに気をつけながら自己紹介を行った。

おすすめポイント

自己紹介は、事前にイラスト・写真を入れたスライドを作成しました。それをもとに交流を行ったことで、相手に伝わりやすかったです。



② 企画の制作・練習

交流は継続的に、年間2回を設定した。1回目はレクリエーション、2回目は、新年会と題して「あっ(いいね!)と言わせる発表会」を設定した。1回目は、グループに分かれてから企画。2回目は、各々でできることを考え、似た内容同士でグループを作成した。

生徒達の企画は、1回目が①グーパー体操・反対信号②仲間はずれクイズ③文字ならべなどの簡単なゲーム、2回目が①ダンス披露②マジック・昔遊び(一緒に)③よさこいなど、見て楽しむ企画でした。



③ 中間発表・本番

中間発表会を持ち、実際に発表側と視聴側(利用者さん視点)に分かれてオンラインリハーサルを行った。視聴側より、良かった点、改善点を付箋に記入し、報告をしたことで改善点が見えた。また、発表を効果的する進行や、発表の順番を検討し、当日を迎えた。当日は、衣装を着て役になりきり、利用者さんにサービスを届けることができた。

子どもの反応

リハーサルを終えて「一緒に楽しみましょう」のかけ声が嬉しいと思う

子どもの反応

本番を終えて…相手も自分達も楽しくできて良かった!

